

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

旭川医科大学研究フォーラム (2016.3) 16:82-93.

2015年度JICA「アフリカ地域 地域保健担当官のための保健行政」コース

伊藤 俊弘, 吉田 貴彦, 藤井 智子, 北村 久美子

依 頼 稿 (報告)

2015 年度 JICA 「アフリカ地域 地域保健担当官のための保健行政」コース

伊 藤 俊 弘* 吉 田 貴 彦** 藤 井 智 子* 北 村 久 美 子***

1. はじめに

本研修コース「アフリカ地域 地域保健担当官のための保健行政」は、独立行政法人国際協力機構 (JICA) の JICA 北海道 (札幌) と旭川医科大学が 2008 年度 (平成 20 年度) から継続して行っている地域別研修事業である。本学では看護学科と健康科学講座の教員がコースリーダーを担当しており、昨年度までの 7 年間

で 16 ヶ国 79 名の研修生を受け入れてきた (表 1)。研修参加を第 1 期から第 3 期まで期間別に分けて地図に示した (図 1)。ナイジェリア、リベリアおよび南アフリカは第 1 期のみ、モロッコ、ジンバブエおよびレソトは第 2 期のみ参加である。シエラレオネとウガンダは第 1 と第 3 期に参加し、マラウイは 2 期から参加し 3 期も毎回参加している。ガーナ、エチオピア、ケニアおよびタンザニアは第 1 期から継続して参加して

表 1 各年度における研修員の受け入れ国および人数

研 修 期 間		第 1 期			第 2 期			第 3 期		計
地 域	国 名	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	
北アフリカ	スーダン							2	2	4
	モロッコ					1	1			2
西アフリカ	ガーナ	3	2	2	3	2	2	3	1	18
	シエラレオネ	1						1		2
	ナイジェリア	2	2	1						5
	リベリア	2	1	2						5
東アフリカ	ウガンダ			1					1	2
	エチオピア		1	2	2	2	2		1	10
	エリトリア							1		1
	ケニア		2	1		1	1	2	1	8
	ザンビア								1	1
	ソマリア								1	1
	タンザニア		1	1	3	2	2	2	1	12
マラウイ				1	3	2	1	2	9	
南アフリカ	アンゴラ							1		1
	ジンバブエ				3	1	1			5
	レソト					1	2			3
	南アフリカ			1						1
受入れ人数		8	9	11	12	13	13	13	11	90
受入れ国数		4	6	8	5	8	8	8	9	18

*旭川医科大学 *看護学講座 **健康科学講座 ***名誉教授

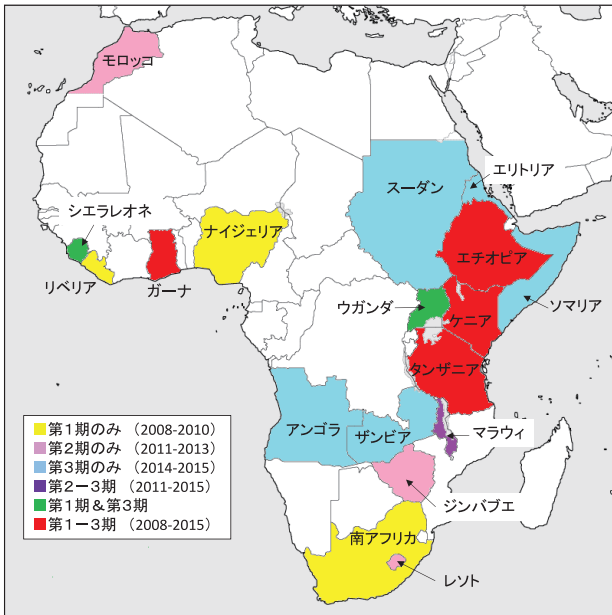


図1 第1期から第3期まで各期別にみた研修参加国

おり、特にガーナは第1回からすべての研修に参加している。このほかスーダン、エリトリア、ソマリア、アンゴラおよびザンビアは第3期以降の参加国である。

本年度の研修は、平成27年6月24日から8月7日の期間で行われたが、このうち本学が関わる技術研修は6月29日から8月6日までの39日間であった。研修員の出身国と人数は9か国11名で、内訳はエチオピア、ガーナ、ケニア、ソマリア、タンザニア、ザンビアおよびウガンダが1名ずつで、スーダンおよびマラウィからは各2名の参加であった。研修員のうち女性はスーダンとザンビアの2名であった。研修員の職種は、11名のうち10名が医療職者（うち医師は9名）と保健行政サービス担当者である。

II. 本年度の研修カリキュラムと研修結果の概要

研修カリキュラムは2008年の開始以来、研修員からの意見を参考に毎年改善を加えてきた。また、2014年度に英文コース名を変更して2年目となるが、基本的には第1期の方針をほぼ踏襲している。研修は、旭川医科大学及び北海道JICAセンターでの講義・演習と各現場を訪れての見学からなる研修を織交ぜることで理解の促進を図っている。こうした編成に対して研修員からは、「この研修は実践的で、レジャー（現場見学や学校訪問、健康増進運動の体験などを指すものかと思われる）と仕事（PCMなど演習や座学を指す

ものか）が双方織り込まれており、エビデンスベースの事例を用いて学ぶことができた。」とのコメントが寄せられるなど、座学と演習・見学実習といった、静・動が組合された研修プログラムは、全体的に高く評価され、好感をもって受け入れられてきた。一方で各研修員からコースの内容・期間をより充実させてほしい旨の要望が多かったことから2010年度以降、研修期間を1週間延長し、より多くの知識と現場での実務見学を充実するべく本研修カリキュラムを改善してきた。

本年度の研修スケジュールを表2に示す。研修は、最初にコースリーダーが概論の講義を行う。これは研修の中核となる「地域保健行政」、すなわち国民の健康に係る行政システムがアフリカと日本では大きく異なるため、はじめに日本の保健医療行政（中央-地方行政組織、包括的医療の提供サービス、健康保険・医療提供システムなど）の特徴を理解しておくことがその後の無用な混乱を避け、研修員の自国における地域保健医療行政に役立つ知識や技術の習得に必須であることによる。

「地域保健行政」は、保健所長による地域保健法に基づく地方保健行政の役割分担に関する講義と、北海道庁保健福祉部、地域保健行政の指導的役割を果たす道立保健所（上川保健所）および住民への保健サービス提供の場となる市町村保健センター（枝幸町、美瑛町）を訪問し、それぞれの地域保健医療行政の役割とそこで働く行政職や各種専門職の役割を系統立てて学ぶ機会とした。美瑛町では町立病院と地域の老人保健施設との連携活動を見学した。枝幸町において事務職の保健福祉課長より財政の仕組み、予算編成、町の保健師により地域の現状にあわせたより実践的な活動について学んだ。また、住民の健康づくり事業として遠隔システムを用いた健康運動指導について、札幌の発信元スタジオおよび受信側の枝幸町での住民の運動実践の双方の現場を見学することで繋がりを体験することができた。

次いで「母子保健」、「精神保健」、「社会福祉」の講義を行い、保健福祉センター、介護施設の現場を訪問した。

「日本の医療提供体制」（病院・診療所等の治療を主とする狭義の医療機関）についての講義・見学を実施した。「病院管理」領域について、アフリカでも展開中の医療現場での5S活動に基づく病院管理法、旭川医

表2 2015年度 アフリカ地域 地域保健担当官のための保健行政 研修 日程

月 日	研修内容	単元	研修担当者	場所
6月23日(火)	研修員来日、札幌移動		JICA札幌	*札幌宿泊
6月24日(水)	ブリーフィング、ガイダンス、健康診断、日本語研修		JICA札幌	JICA札幌センター
6月25日(木)	ジェネラルオリエンテーション(日本の歴史・文化、社会・教育、政治・経済・行政)		JICA札幌	JICA札幌センター
6月26日(金)	プログラム・オリエンテーション、日本語研修、健診結果説明、自習		JICA札幌	JICA札幌センター
6月27日(土)	フリー			JICA札幌センター
6月28日(日)	PM 札幌から旭川へ移動(バス)			*旭川宿泊
6月29日(月)	11:00-12:30 開講式 13:00-13:15 オリエンテーション(共通テーマ紹介グループ分け・Today's summary担当決め) 13:15-16:20 カントリーレポート発表会(国ごと) 看護学科1,2年生 聴講 16:30- 万歩計配付、体組成測定 記録 17:30- ウェルカムパーティ		JICA札幌 吉田貴彦・藤井智子 司会: JICA札幌 藤井智子・伊藤俊弘 伊藤俊弘・藤井智子	AMU大会議室 AMU大会議室 AMU臨床第1講堂 AMU6F実習室 AMU6F実習室
6月30日(火)	日本における人の健康にかかわる行政の体制と活動概要について学ぶ 9:30-11:00 講義 日本の衛生行政・労働行政・環境行政の体制と概要 11:00-12:30 講義 日本の国民健康増進対策・疾病対策の変遷と概要 13:30-14:30 講義 日本の保健医療提供体制全般に対する質疑 地域保健活動に役立つ健康・保健データの活用 14:30-16:30 講義・演習 地域保健活動における保健データの解析手法	① ① ① ②	コーディネート 吉田 吉田貴彦 教授 コーディネート 伊藤 伊藤俊弘 教授	小会議室 小会議室 小会議室
7月1日(水)	感染性疾患の蔓延防止の対策を学ぶ 9:30-11:00 講義 感染症対策の基本 "Standard Precaution" 11:00-12:30 講義 感染症の基礎知識(寄生虫感染症対策) 13:30-15:00 講義 脳囊虫症・エキノコックス症 日本の医療提供施設およびその提供サービスについて学ぶ 15:00-16:30 講義 旭川医大病院における病院管理(財政・人事、物品・医療情報)	① ① ③ ②	コーディネート 吉田 吉田逸朗 先生 中尾 稔 准教授 迫 康仁 教授 コーディネート 吉田 成田昭夫 病院経営企画課長	小会議室 小会議室 小会議室 小会議室
7月2日(木)	公衆衛生の第一線機関としての保健所の役割を学ぶ 9:30-11:00 講義 地域保健行政の役割(保健所・保健センターの業務分担) 研修員相互の情報交換・討論 11:00-12:30 ディスカッションアワー 1 Immunization 公衆衛生の第一線機関としての保健所の役割を学ぶ 14:00-15:00 講義 保健所を中心とした地域の感染症対策 15:00-16:00 見学 上川保健所の見学(主に健診機器・検査業務)	② ⑤ ② ②	コーディネート 吉田 杉澤孝久 旭川市保健所長 コーディネート 吉田 コーディネート 吉田 岡崎弘行 上川保健所長 上川保健所	小会議室 小会議室 タクシー移動 上川保健所
7月3日(金)	グローバルな視点から結核対策を学ぶ 9:30-12:30 講義 結核対策における技術支援・人材育成・対策立案 日本の医療提供施設およびその提供サービスについて学ぶ 13:30-16:30 見学 旭川医大病院の院内見学 感染症対策(清潔・不潔)、外来・入院患者の流れ、入退院センターの機能、医療廃棄物の処理、スタッフのための厚生施設、意見箱、給食システム、外来ブース・病棟の配置など	① ②	コーディネート 吉田 大角晃弘 先生 コーディネート 吉田・伊藤 黒崎明子副看護部長、辻崎ゆり子副看護部長、平瀬美恵子看護師長	小会議室 旭川大学病院(集合場所:3階輸血部CR)
7月4日(土)	フリー			
7月5日(日)	フリー			
7月6日(月)	PCM(プロジェクト・サイクル・マネジメント)の手法を学び担当地区の問題を分析することに役立てる。 9:30-12:30 講義・演習 PCMの手法① Overview / Stakeholder analysis 13:30-16:30 講義・演習 PCMの手法② Problem Analysis / Objective Analysis(part1) 国際保健に興味を持つ学生との交流(希望者があれば)	④ ④	コーディネート 吉田 半田祐二郎 先生 半田祐二郎 先生	小会議室
7月7日(火)	9:30-12:30 講義・演習 PCMの手法③ Objective Analysis (part 2) / Alternative Analysis 13:30-16:30 講義・演習 PCMの手法④ Objective Analysis (part 2) / Alternative Analysis	④ ④	半田祐二郎 先生 半田祐二郎 先生	小会議室
7月8日(水)	日本の母子保健、小児保健の概要を学ぶ 9:30-11:00 講義 日本の母性看護の歴史と現状 11:00-12:30 講義 日本の小児看護の歴史と現状 日本における学校保健活動について現場で学ぶ 13:30-15:00 講義 学校保健 養護教諭の役割 15:30~ 旭川から札幌へ移動(バス)	① ① ①	コーディネート 藤井 伊藤幸子 教授 岡田洋子 教授 コーディネート 藤井 渋谷和子 先生	小会議室 小会議室 小会議室 *札幌宿泊

月 日	研修内容			
7月9日(木)	日本の地域保健・医療における行政機関の役割(地域医療保健福祉に関わる法規、政策、行政組織) 9:30-10:30 講義 北海道における保健行政の政策・財政 ~感染症対策~ 10:30-11:30 講義 北海道における保健行政の政策・財政~がん対策・健康づくり~ 遠隔ICTを活用した保健指導 12:45-13:30 見学 北海道におけるICTを活用した保健指導・運動指導 移動(大通り~JICA研修所) 日本の社会福祉の概要について学ぶ 15:00-16:00 講義 日本の社会福祉・介護保険制度① 16:00-17:00 講義 日本の社会福祉・介護保険制度②	③ ③ ③ ① ①	コーディネート 北村 北海道庁保健福祉部健康安全 局地域保健課 立花八寿子主 幹 北海道庁保健福祉部健康安全 局地域保健課 田中研伸主幹 コーディネート 吉田 NPOスタッフ コーディネート 吉田・北村 永井順子 准教授 中村和彦 教授	道庁エントランス 9:15集合 北海道庁 北海道庁 NPO健康保養ネットワ ーク 札幌事務所 JICA札幌センター JICA札幌センター
7月10日(金)	9:30-11:00 講義 日本のハンセン病対策の変遷と人権侵害 Non-communicable diseasesについて概観する 11:00-12:30 講義 1型糖尿病の基礎知識 移動(バス、JICA札幌センター~結核予防会) 日本の健康診断事業について学ぶ 14:00-16:00 講義 日本の健康診断事業(結核予防会・複十字総合健診センターの役割、地域との連携) 見学 健診センター内の見学、健診車の見学	① ① ① ②	北海道はまなすの里 平中忠信代表 コーディネート 北村 国際糖尿病支援基金 堀本縁織 先生 コーディネート 北村 結核予防会北海道支部複十字 総合健診センター 北谷涼子 保健師	JICA札幌センター JICA札幌センター 公益法人結核予防会北 海道支部複十字総合健 診センター
7月11日(土)	フリー			
7月12日(日)	フリー			
7月13日(月)	日本の精神保健について概観する 9:30-11:00 講義 日本の精神保健の現状と課題 日本の疾病構造の変革、Non-communicable diseasesについて概観する 11:00-12:30 講義 日本の死因の変遷とNCD対策 地域における介護サービスについて学ぶ 13:30-15:00 講義 住民にあったケアプランの作成方法とコーディネーターの役割 研修員相互の情報交換・討論 15:00-16:30 ディスカッションアワー 2 Improved ART Care According Recent Guideline	① ① ② ⑤	コーディネート 伊藤 長谷川博亮 教授 コーディネート 伊藤 西條泰明 教授 コーディネート 伊藤 ケアプラン相談所 中川雅子代表	小会議室 小会議室 小会議室 小会議室
7月14日(火)	日本における学校保健活動について現場で学ぶ 9:00-11:00 見学 東光中学校 施設見学、生徒の授業など見学、保健室の見学 11:30-16:30 見学 北海道教育大学附属旭川小学校 児童と教室で給食、施設見学、学童の授業・活動など見学	② ②	コーディネート 塩川・吉田 中村校長、村田教頭 荒川副校長	東光中学校 タクシー移動 教育大学附属小学校
7月15日(水)	日本における公衆衛生看護の歴史・時代背景・役割を学ぶ 9:30-11:00 講義 日本の公衆衛生看護の歴史① 11:00-12:30 講義 日本の公衆衛生看護の歴史② 13:30-16:30 講義 日本の1950~1970年代に活躍した開拓保健師の軌跡	① ① ③	コーディネート 北村 北村久美子 教授 加藤 正子 元開拓保健師(元 道保健師) 北村久美子教授	小会議室 小会議室
7月16日(木)	医師の人材育成について学ぶ 9:30-11:00 講義 日本の医学教育と医師の需給バランスの問題 PCM(プロジェクト・サイクル・マネジメント)の手法を学び担当地区の問題を分析することに役立てる 11:00-12:30 講義・演習 PCMの手法④ Formulation of Project Design Matrix (Outline) / summary 13:30-16:30 講義・演習 PCMの手法④ Formulation of Project Design Matrix (Outline) / summary	③ ④ ④	コーディネート 吉田 井上裕靖 講師 コーディネート 吉田 半田祐二郎 先生 半田祐二郎 先生	小会議室 小会議室
7月17日(金)	PCM(プロジェクト・サイクル・マネジメント)の手法を学び担当地区の問題を分析することに役立てる 9:30-11:00 講義・演習 PCMの手法④ Formulation of Project Design Matrix (Outline) / summary 11:00-12:30 講義・演習 アクションプラン作成に向けて 地方中規模病院の管理運営の実際 13:30-15:00 講義 病院管理学・医療科学の基本 15:00-16:30 講義 病院管理学・医療科学のアフリカにおける実例紹介 16:30~ 道北フィールドツアー ガイダンス	④ ④ ① ③	コーディネート 吉田 半田祐二郎 先生 半田祐二郎 先生 コーディネート 吉田 半田祐二郎 先生 半田祐二郎 先生	小会議室 小会議室
7月18日(土)	PM ホームパーティ			
7月19日(日)	フリー			
7月20日(月)	フリー			

月 日	研修内容			
7月21日(火)	地域の結核治療について専門施設の場で学ぶ 9:30-10:15 講義 旭川医療センターにおける結核医療の変遷と現在の治療、病院と地域の連携・役割 10:15-11:15 見学 旭川医療センターにおける結核医療の現状視察 北海道北部における地域保健・医療の実際について学ぶ 13:15-14:30 講義 地域センター病院の役割(到着は13:00頃になるかと思いますが) 講義 ITネットワークによる連携と支援 14:30-16:00 見学 地域センター病院である名寄市立総合病院の視察 名寄から枝幸に移動(バス)	③ ③ ③ ③	コーディネート 藤井 旭川医療センター 藤兼俊明 副院長、山崎泰宏 内科医長 コーディネート 藤井・伊藤・塩川・吉田 和泉裕一 院長 酒井博司 副院長	旭川医療センター 名寄市立総合病院 * 枝幸宿泊
7月22日(水)	9:00-11:30 講義 枝幸町の母子保健管理体制 13:00-14:00 見学 ICTを活用した地域における住民の健康作り支援 14:00-16:00 講義 枝幸町の保健福祉行政、財政のしくみ・予算編成等 16:00-17:00 見学 地域病院での医療提供とサテライト診療	③ ② ② ③	植村由佳 枝幸町副主幹 NPOスタッフ 佐藤祥人 保健福祉課参事 白井院長 枝幸国保病院	枝幸町役場 健康保養館(ニュー幸林) 枝幸町役場 枝幸国保病院 * 歌登宿泊
7月23日(木)	9:00-12:00 講義・見学 枝幸町の保健師活動 枝幸から紋別に移動(バス)・ 地域保健関連施設(食品保健・環境保健・産業保健)の実務を学ぶ① 14:30-16:30 講義・見学 食品保健(衛生に配慮した食品加工) 北海道北部における地域保健・医療の実際について学ぶ 16:45-17:30 見学 冬季の北海道の自然環境・暮らしの理解	③ ② ③	工藤裕子 元枝幸町主幹 非常勤保健師 コーディネート 吉田 安中慎一 常務取締役 コーディネート 藤井 北海道立オホーツク流氷科学センター	枝幸町保健センター マルカイチ水産 北海道立オホーツク流氷科学センター * 紋別宿泊
7月24日(金)	北海道北部における地域保健・医療の実際について学ぶ 9:00-10:00 見学 オホーツク圏における看護師養成機関の役割 日本における学校保健活動について現場で学ぶ 11:00-12:30 見学 児童自立支援教育について学ぶ 乳幼児を中心とした住民の栄養指導について学ぶ 14:45-16:45 講義・演習 乳幼児の栄養	③ ② ②	コーディネート 藤井 品川由美子 教務主幹 コーディネート 吉田 熱田洋子 理事 コーディネート 吉田 豊島琴恵 教授	道立紋別高等看護学院 北海道家庭学校 旭川大学 17:30頃帰旭
7月25日(土)	フリー			
7月26日(日)	フリー			
7月27日(月)	日本の環境保健と産業保健の概要について学ぶ 9:30-11:00 講義 日本の環境問題の歴史と環境保健の動向 11:00-12:30 講義 環境保健行政の実務(上下水処理、廃棄物処理) 13:30-15:00 講義 地域における産業保健活動の実際 研修員相互の情報交換・討論 15:00-16:30 デスカッションアワー 3 Community Mobilization / Flying Doctor 16:30~ 近隣の見学ツアーの説明	① ① ① ②	吉田貴彦 教授 伊藤俊弘 教授 吉田貴彦 教授 吉田、藤井、伊藤	小会議室 小会議室 小会議室 小会議室
7月28日(火)	地域保健関連施設(食品保健・環境保健・産業保健)の実務を学ぶ② 9:00-11:30 見学 廃棄物処理施設 13:00-15:00 講義・見学 近文清掃工場、リサイクルプラザ 15:30-16:30 見学 旭川廃棄物処理センター(旭川振興公社)	② ② ②	コーディネート:伊藤・中木 西野尾孝子 社長 近文清掃工場、リサイクルプラザ 旭川廃棄物処理センター	バス ホテル出発8:15 (旭川医大経由8:30)・ホテル帰着17:15 アンビエンテ丸大 近文清掃工場 旭川廃棄物処理センター
7月29日(水)	地方における医療機関と地域保健業務の連携を学ぶ 9:00-10:00 講義 町立病院と町保健センターが連携した地域住民の健康管理 10:00-12:30 見学 地域内訪問診療の実際 (市街地域、高齢者施設・福祉住宅・個人宅) 昼食 13:30-14:00 講義 美瑛町における整形外科訪問診療(味戸伸彦医師) 14:00-15:00 見学 住民に対する保健サービス提供の実際 15:30-16:30 見学 地域内訪問診療の実際 (遠方地域、居宅介護施設) 16:45-17:30 総括講義 (味戸伸彦医師・藤原裕子看護師他)	③ ③ ③ ③ ③	コーディネート:藤井・吉田 味戸伸彦 先生 安倍信一 施設長 美瑛町民センター 味戸伸彦 先生 美瑛町保健センター保健師 小規模多機能施設長 味戸伸彦 先生	バス ホテル出発8:00 (旭川医大経由8:15)・医大18:15ホテル帰着 美瑛町立病院 特別養護老人ホーム 美瑛慈光園 美瑛町民センター 美瑛町立病院 美瑛町保健センター 小規模多機能施設 ひなた(美馬牛駅前) 美瑛町立病院

月 日	研修内容			
7月30日(木)	地域保健関連施設(環境保健・産業保健)の実務を学ぶ③ 9:30-11:30 講義・見学 食品保健の現状:旭川市食肉衛生検査所(と畜場・食肉検査) 13:00-14:30 講義・見学 産業現場の現状:製紙工場 15:00-16:30 講義・見学 忠別川浄水場(旭川市水道局) 19:00~ 花火見学(希望者)	② ② ②	コーディネート:伊藤・中木 食肉衛生検査所 所長 向峯斉グループ長 忠別川浄水場 伊藤俊弘 教授	バス ホテル出発8:45・ 医大16:45ホテル帰着 旭川市食肉衛生検査 所 日本製紙 旭川工場 忠別川浄水場 常磐公園河川敷
7月31日(金)	研修員相互の情報交換・討論 効果的な健康指導 9:30-11:00 ディスカッションアワー 5 11:00-12:30 講義・演習 住民教育の方法と、教育に役立つ資料作成 医学トピックス 13:30-15:00 講義 Life style related disease: What is Hypertension? 15:00-16:30 講義 Current Status of Organ Transplantation in Japan and Other Asian countries 地域交流会説明 16:30~ 地域交流会説明	⑤	藤井智子 教授 長谷部直幸 教授 古川博之 教授 伊藤俊弘 教授	小会議室 小会議室 小会議室 小会議室
8月1日(土)	PM	地域交流会(希望者)		
8月2日(日)	フリー			
8月3日(月)	9:30-10:00 市長表敬訪問 保健福祉計画(アクションプラン)のアピール方法、組織上層部へのプレゼンテーション方法を考える 11:00-12:30 アクションプラン作成 アフリカにおける保健強化・キャパシティ開発実践に学ぶ② 13:30-16:30 講義 保健システム強化とキャパシティ開発 -アフリカの事例を中心に-	④	西川将人旭川市長 杉下智彦専門官	旭川市役所 小会議室 小会議室
8月4日(火)	住民に合わせた啓発方法、組織へのプレゼンテーションを考え実施する。 9:30-12:30 講義 保健システム強化とキャパシティ開発 -アフリカの事例を中心に- 13:30-16:30 アクションプラン作成	④	杉下智彦専門官	小会議室 小会議室
8月5日(水)	遠隔ICTを活用した医療の均等化 10:00-11:00 講義 大学と地域・国際連携 11:00-12:00 ICT多地点会議システム		コーディネート 吉田貴彦 吉田晃敏学長	遠隔医療センター
8月6日(木)	保健福祉計画(アクションプラン)のアピール方法、組織上層部へのプレゼンテーション方法を考え 実施する。 9:30-12:30 アクションプラン・プレゼン 13:30-15:30 アクションプラン・プレゼン 15:30-16:30 評価会 17:30- サヨナラ・パーティ		JICA札幌 JICA札幌 JICA札幌	大会議室 大会議室 大会議室 田舎横丁
8月7日(金)	10:00-11:00 体組成測定 記録 11:00-11:30 閉講式 11:30~ フェアウェル・パーティ 旭川から札幌へ移動(バス)		藤井・塩川・伊藤 JICA札幌	AMU6F実習室 大会議室 小会議室

科大学病院での病院管理運営、地域支援病院の機能の講義を設定した。実地学習として、高度先進医療を担う旭川医科大学病院、感染症と難病対策に重点をおく国立病院機構旭川医療センター、地域支援病院である名寄市立総合病院とそのサテライト診療の場としての枝幸国保病院、整形外科の往診診療も行う美瑛町立病院を訪問視察し、それぞれの機能分担、病診連携等を学んだ。医療スタッフなどの人材養成と人材確保について、旭川医大での医師養成と地域で活動する医師確保の試み、紋別高等看護学校での看護師養成について教育現場を訪れて学んだ。

「環境保健領域」では講義に引き続き、浄水場、ゴミ焼却場、廃棄物最終処分場、医療廃棄物処理施設、食

品系・草木質系廃棄物からの堆肥化施設、ビン・缶・ペットボトルなどのリサイクル施設、古紙リサイクル施設を見学し、衛生確保の重要性和環境保護・資源の有効活用の必要性を学んだ。

「食品衛生管理」の一環として、上川保健所検査施設、食肉検査所と海産物加工食品製造現場を訪問し、食品の衛生・安全確保にかかわる検査の見学、食肉の安全性の確保・担保の仕方についての講義とDVDによる屠畜場の衛生管理状況を学んだほか、衛生的な海産物加工場の現場を見学した。

「産業保健領域」では講義のほか製紙工場の見学を行ったが、作業現場での人間工学的な健康管理、安全配慮についてより時間をかけた講義の要望があった。

「学校保健」については、養護教員の講義を通して意義などについての知識を得たのち、中学校を訪れ現役養護教員から活動の実際について学んだ。さらに小学校を訪れ、給食の準備・片付けと清掃の時間を中心に見学することで、小児期から栄養と衛生を含めた健康習慣を身につける場としての学校教育の在り方を知る機会とした。また、研修員は小学校においてそれぞれ学級に配属され給食を児童とともに摂るなど交流の機会を作った。遠軽町の障害児童生徒の児童自立支援教育施設である北海道家庭学校を訪れることで、日本における地域社会での児童福祉の取組みを学ぶ機会とした。

研修員の地域の保健医療行政に関する問題点を分析し対策を立てる手段としての「PCM」は、戦略的計画策定・運営能力強化のために必要な知識・技術としての評価は高かった。また、参加型の演習を行ったことも評価が高かった。

アフリカで課題となるであろうと想定した疾病に関して、課題解決のための一助となるべく基礎的知識についての講義を設定している。具体的には感染症一般（院内感染制御を含む）、結核、マラリア等蚊媒介性疾患、条虫・包虫など寄生虫疾患、生活習慣病（non-communicable diseases）などで、トピックスとして1型糖尿病、高血圧、移植医療についての講義を組んだ。また、生活習慣病予防を念頭に置いた栄養指導（美瑛町保健センター）と乳幼児栄養と離乳食調理の講義も行った。

今年度は、話題提起とディスカッション、“Topic raising & discussion”について、来日前に各研修員が経験した Good practice についての資料や写真をまとめて持参するよう募集要項に記載した。研修の冒頭でカテゴリー一化し情報交換と討論の場を3回設けた。従来の形式（トピックスについて定義などを挙げることに終始した）に比べるとはるかに効果的であった。

2012年から実施している、研修員に毎日1名ずつ担当させた「daily report」は、学んだことの整理となり都合が良かったと好評であった。これは研修日に学んだ内容と意見などを原則として翌日までに電子メールにてコースリーダーへ提出するというものである。おおよそ1週間分をまとめてメールにて研修員や研修担当関係者に配信するようにした。本年度は、2010年度以降の研修員もメンバーに登録されているメーリン

グリストで配信し過去の研修員のモチベーションを高め、現研修員に対する刺激とした。

アクションプランについて、来日前に上司や同僚と討論し、テーマについて予め考えて来るべきことを募集要項に明記した。また、4週間が経過した時点でアクションプランの概要を提出させる事としたことで、作業の進度が昨年までと比べて早くなった。研修員全員がPCを持参し、PC上でアクションプランを作成する者が殆どであり、ポストイット等を用いて作業を行うものは殆どなかった。本研修の初期に比べ、研修員も全員PC操作に慣れ、電子メール等でのやり取り、「日報」や「アクションプラン」のファイルの送受信も可能であった。アフリカ諸国の社会状況も大きく変革しつつあることが実感された。

III. 本研修の目標達成状況

案件目標：

本コースは、講義、演習、視察、総合討論を通して、我が国の保健医療行政に関する基本的理念について制度や組織の歴史の変遷と合わせて、国民の健康（保健医療）の課題に対して行われてきた地方保健医療行政（特にアフリカ地位と同様に医療サービスへのアクセスが容易でない問題を抱える北海道の実情に照らし）改善のための諸取組の変遷および現在の状況を把握・理解し、参考とすることにより、研修員出身国での健康医療問題解決の一助となることを目指す。

各自が作成した地域保健医療計画（アクションプラン）の構成と内容について、プレゼンテーションによる説明を受けて評価する。具体的には、以下に示すごとくである。

- i) 自国や所属地域の保健医療にかかる現状分析ができているか。
- ii) 地域保健計画に必要な課題設定、課題解決の方法、評価などの基本要素が理解できているか。

達成度：研修員11名全員が達成した。

単元目標（表3）：

・単元目標①：日本の保健・医療・福祉の体制と制度について学ぶ。

達成度：研修員11名全員が達成した。

・単元目標②：地域保健サービス提供計画の策定に必

表3 達成度の測定結果

	←←達成 未達成→→				無回答
	“4”	“3”	“2”	“1”	
案件目標	6	5	0	0	0
単元目標①	7	4	0	0	0
単元目標②	6	4	1	0	0
単元目標③	5	6	0	0	0
単元目標④	5	4	1	0	1
単元目標⑤	5	5	0	0	1

要な基本的な知識と技術を習得する。

達成度：研修員11名全員が達成した。1名はやや達成できなかったと回答した。

- ・単元目標③：北海道の地域の健康課題への解決対策について事例から学ぶ。

達成度：研修員11名全員が達成した。

- ・単元目標④：国や地域の個別の健康課題を特定する技術を学ぶ。

達成度：研修員9名が達成した。1名はやや達成できなかったと回答した。1名は無回答であった。

- ・単元目標⑤：④の課題に基づく地域の保健活動についての企画の作成・上申と、地域コミュニティでの展開について学ぶ。

達成度：研修員11名全員が達成した。1名は無回答であった。

本年度は、医師の比率が高く、健康問題に関する知識や技術を持つとともに、地域において責任を持つ立場の研修員が多かった事もあり、講義、演習、施設等訪問見学、総合討論時には質の高い質問・コメントも多いなど、研修員が積極的に学ぶ姿勢が見られ、また、互いの理解度を上げるために研修員同士での補足討論がなされた。自己に対する評価にも厳しさが感じられるが、全ての単元において比較的高い達成度が得られた。

- ・案件目標に対する達成度は、4：6名、5：5名であり、11名全員が達成した。

IV. 研修員の特性

2014年度の本研修の英文コース名の変更と対象者

を本コースの本来の趣旨に厳密に合わせることを明記した募集要項の改善により、研修員全員が医療・保健を専門とし、地域のアクションプラン策定ないしその指導的立場にある者で構成されていた。今年度は、従来に比べて研修員の分析力やディスカッションへの参加の積極性、プレゼンテーション能力の高さが目立っていた。これは医師の比率が極めて高い(11名中9名)ことも関係しており、質問内容が医学的に高度なものが多い印象を受け、地域保健行政に携わる責任を担う人材を対象とするという本研修の目的は達成されているように思われた。

また、ここ数年研修員の年齢層が大幅に若くなっているが、この事は帰国後の各国での保健行政担当者としての活動期間が確保できる事や人材育成の機会を拡大するという面では有意義である。研修員は非常に熱心であり、講義や視察において良く理解することに積極的であり質問も多く、研修参加に意欲的であった。

例年、研修員の多くが肥満傾向にあることから、2013年から研修員全員研修初日と最終日に身長、体重、体脂肪等を測定し、その変化を記録し研修員に結果として返却した。また体重のコントロールや生活習慣改善のために万歩計と記録用紙を配布し、各自の日常生活を振り返るよう支援した。本年は、年齢層が若かったこともあり、肥満の程度は軽かった。ホテルから大学まで徒歩で通った研修員もあり、体重の軽減した者が多く見られた。帰国後の地域住民に対する生活習慣改善のための指導に役立たせる経験となったものと思われる。

IV. 最後に

本研修は、地域保健医療行政担当者としてアフリカ地域の实情に合わせて住民への直接サービスの在り方について精通し、地域保健医療行政全体を運営(財政的、人材的、物的に)し、さらには地域の健康課題を抽出し解決のための必要な保健医療計画(アクションプラン)を自国中央省庁に対して効果的にまとめて訴える交渉・連携に必要な知識と技能、同時に、地域住民に対する健康保持増進において有効な対策を企画・推進する能力、さらに地域保健医療の領域で同僚・部下に対して良き模範としてリーダーシップを発揮するといった地域保健医療行政担当者としての総合的な手

腕の修得を目指している。

日本とアフリカ諸国の国情の違いは大きなものであることから、日本の過去の経験や現在の状況を教える講義や最先端の施設や機器を見学するだけでは不十分である。過去の日本の状況がどのようにして現在の状況まで変わったかを学び、特に広大な土地の中に人々が点在し医療機関へのアクセス悪い北海道で学んだことを、吸収し各自が自分なりに応用して実践できるような態度の寛容が必要である。

本年度は、医師の比率が高く、健康問題に関する知識や技術を持つとともに、地域において責任を持つ立場の研修員が多かった事もあり、講義、演習、施設等訪問見学、総合討論時には質の高い質問・コメントも多く、研修員が積極的に学ぶ姿勢が見られ、また、互いの理解度を上げるために研修員同士での補足討論がなされた。自己に対する評価にも厳しさが感じられるが、全ての単元において比較的高い達成度が得られた。

本研修は、来年度（平成 28 年度）第 3 期の最終年度に当たるが、研修生の特性や彼らを取り巻く状況が研修初期の頃と比べて大きく変化しており、研修生が要求する内容の変化に合わせたカリキュラムの更なる修正が必要な状況ではあるが、本研修が来年度以降も継続し得ることを見据え、研修員にとってより良いものになるよう努めていきたいと思う。



開講式



カントリーレポート発表会 1



カントリーレポート発表会 2



ウェルカムパーティ



講義風景



上川保健所見学



PCM講義 1



PCM講義 2



東光中学校見学



教育大附属小学校見学



旭川医療センター見学



名寄市立病院見学



旭川大学（講義：乳幼児の栄養）



アンビエンテ（産業廃棄物処理場）見学



旭川食肉検査所見学



遠隔医療センター見学



旭川市花火大会見学



吉田教授邸訪問